

【概要】

2020年度フラット35利用者調査

I 調査の概要

フラット35(買取型)又はフラット35(保証型)を利用された方の属性、住宅の概要等に関して、2020年4月から2021年3月までに機構が買取り又は保険付保の承認を行った案件(借換えに係るものを除きます。)のうち78,560件(2019年度:83,513件)について集計。

本調査は、フラット35(買取型)が創設された2003年10月の翌年度である2004年度から開始しています。

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 マンションの割合が調査開始以来最低に <p.2>

フラット35利用者の取得住宅の内訳は、マンションの割合が1割を下回り、2004年度の調査開始以来最も少なくなった(8.5%)。

2 家族数1~2人の世帯が増加 <p.5、p.6>

家族数1~2人の世帯の割合が増加し、マンション及び中古マンションでは半数を超えている(マンション59.9%、中古マンション57.0%)。

3 中古住宅の平均築後年数が長期化 <p.19、p.20>

中古住宅の平均築後年数は長期化しており、戸建、マンションともに築後年数の長い住宅の割合が増加している(中古戸建20.0年、中古マンション24.9年)。